



萱原潤 総社市議会議長

今年も議会議改革元年の年 一問一答で分かりやすい議論に

20数万人が利用する直売所「サン直広場ええところ」が、安全や新鮮さを売りにしていますが、いろいろな工夫を考えながら、解決方法や方針というものを見出し出していきたいと思えます。

議長 20数万人が来場するサン直広場は、一大観光地ですね。農業を広くとらえたら観光にも貢献しており、観光地にもなっていると考えると面白いですね。

としたおもてなしをしたいですね。

市長 そうですね。おもてなしの心をもって温かい気持ちで、このマラソンを成功裏に導きたいと思っています。秋には国民文化祭があり、総社では「古代吉備の風景」というシンポジウムや和太鼓の競演、日本画の美術展、民話の祭典を開催します。ここでも全国からお客様が来られますし、総社市を全国発信していくチャンスで、今から楽しみにしています。

市長 もう一つは、多文化共生で、3月27日にブラジルのカス

に総社に来た京都の作曲家が、「吉備路の風景は飛鳥にも匹敵する美しさがある」と言いました。総社の観光を考えたときに何が価値があるものなのか、それをプロジェクトの皆さんが適確にとらえて、答申してくれることを期待しています。

市長 そのこだわりは大切です。例えば、この対談会場を拠点に活動しているNPO法人吉備野工房ちみちが、総社らしさや総社の良さを探訪する取り組みをしていることは頼もしい限りです。

議長 何をやるのでも最後は人、マンパワーです。そういう人たちに感謝をしながら、行政が何ができるかとか、そういうことも一つの視点かもしれないですね。

市長 市の環境観光大使でアルピニストの野口健さんを講師に、「総社市環境学校」を創設したり、電気自動車のアイ・ミーブを市の公用車に導入したり

するなど、環境問題にも取り組んできました。

議長 子どもたちは、野口健さんという超一流の人が目の前で手を取ってものを言ってくれると、やはり心酔するもんですよ。ほかの人が同じことを言っても受け取り方が違うんです。私は自然大好き人間ですが、子どもたちには、理屈抜きでいいから自然大好き人間になってほしいと思います。大好きになると自分が好きなものや大切なものは、守っていこうとか大切にしようとかという気持ち

が自然に起きるんです。

マラソン楽しみ

市長 今年、楽しみにしていることがいくつかあります。まずは2月28日の「そうじゃ吉備路マラソン」。多くのランナーの参加を期待しています。

議長 参加したランナーに、「良かったな」と思っていて帰ってもらうことが大切で、そのためには、しっかりと

や子どもの教育の支援を考えています。国籍に係らず子どもはみんな大事で、子育てがしやすいまちを目指しています。

議長 子どもが安心して育つ、子どもが安心して育つていくようなまちは、すべての市民が安心して暮らせるとても暮らしやすいまちになると思います。

まちづくりの指針

市長 今年は平成23年度から5年間のまちづくりの

指針となる総合計画の後期基本計画の策定の年です。将来の総社市にとって夢や希望を失わないように、夢のあふれるビジョンを示していきたいと考えています。

議長 市長にとってはこれが本場に自分版の総合計画。議会も大いに協議し、お互いに納得いく良いものを作りあげましょう。

市長 市民の皆さんからの意見を集約し、地域の視点に立った計画作りをやっていきたいですね。

議長 民意の反映と市長のリーダーシップの両方の面を兼ね備えてやっていただきたいと思っています。

市長 これからの地方分権に対応できるだけの強い総社市を作っていきたいと考えています。税や権限の移譲というものを強く求めるとともに、政策立案能力、突破力、問題解決能力をもつ職員の育成もしていかなければと思っています。

議長 最低限の人員でやら

ざるを得ないこの状況下で、質の向上を図り、力を蓄えていくことが、市民に還元されていくと思います。体制をきちんと作って人材育成に努めてほしいと思います。

市長 今年も厳しい年になるかもしれませんが、引き続き「情熱その2」ということで、まい進していきたいと思っています。皆さんといっしょに総社市を盛り上げていこうという機運が大事だと思いますので、よろしくお願います。

議長 市政運営には効率も大切だけれども、投資も大切だと思っています。両方をきちんと見て市政を推進し、飛躍してほしいことを最後に申し上げ、市長へエールを送りたいと思います。

市長 厳しい時代だからこそ、市民のために必要なことを基盤として決断をしまいたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

地方分権に対応できる 強い総社市を作っていきたい

片岡聡一 総社市長

